

湖が誘う、風が呼ぶ

SAILおおつ



滑走開始

スタートの合図で一斉にゴールを目指して艇を進める参加者(大津市柳が崎沖の琵琶湖)

競り合い

鮮やかなセールさばきで先を競うレース仕様のヨット

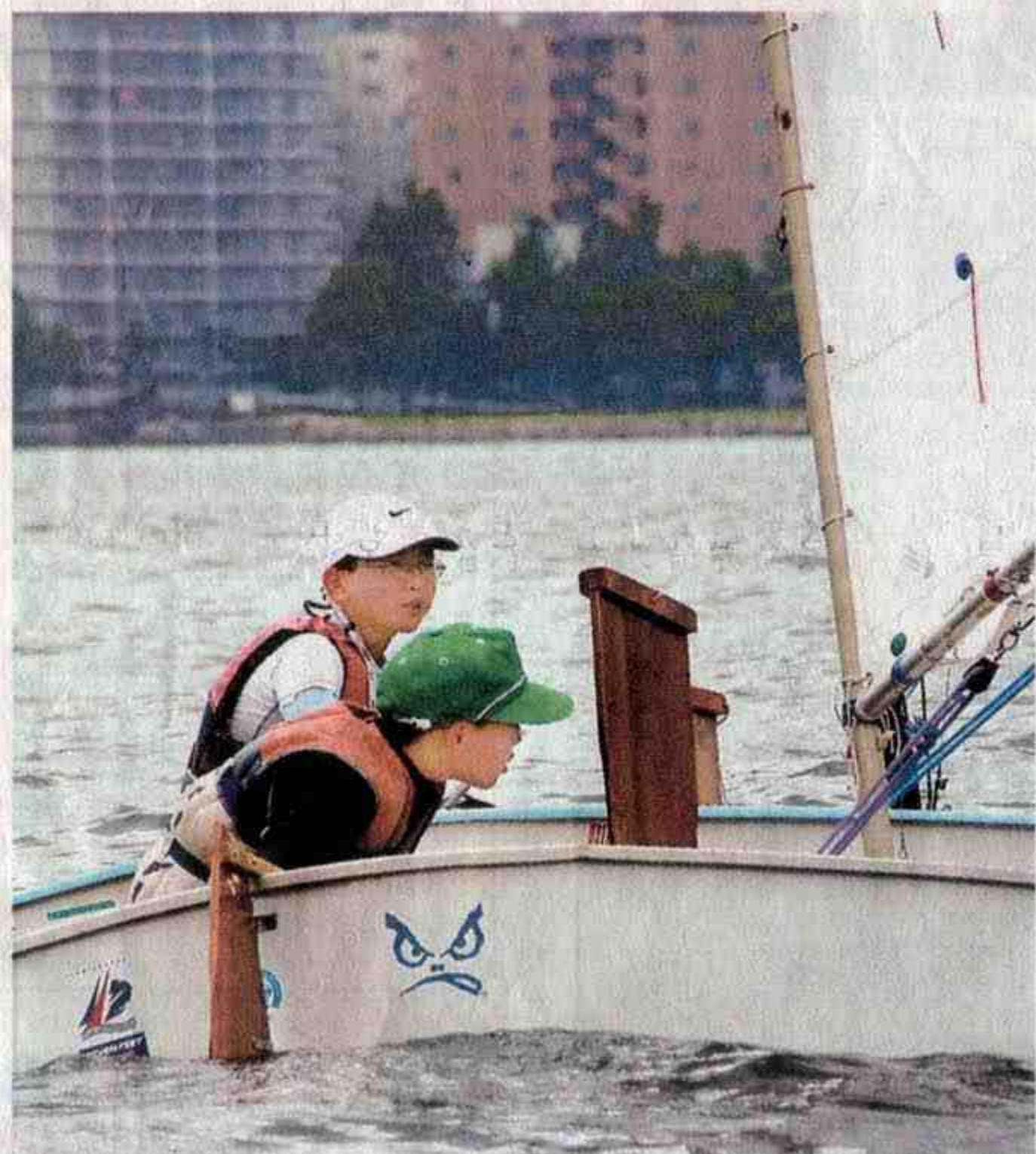


市民、子どもらの44艇集う

琵琶湖を舞台に市民や子どもたちがヨットレースを楽しむ「第八回SAILおおつ」(京都新聞社主催、琵琶湖ヨット倶楽部など主管)が二十七日、大津市の柳が崎沖で開かれた。好天に恵まれた夏休み最後の休日、京阪神から集まった愛好家は湖上の風を巧みに操り、帆を膨らませた。あらゆる艇種が参加できる一般の部には、五輪や国体で使う四七〇級やレーザ級など三十七艇が参加、中学生以下の子どもを対象にしたオプチミストの部には七艇が加わった。レースは柳が崎沖に設けた三角形のコースであり、午前と午後の計二回行われ、順位を競った。

午前十一時にスタートした第一レースははやや風が弱く、帆走に苦労する艇も多かった。午後からは最高の風が湖上を吹き抜け、一転してスピードレースになった。

レースとはいえ、家族連れの参加者もあり、のんびりと琵琶湖の風景を楽しむ姿もあった。



風を読む

真剣な表情で大人顔負けの帆走を見せる子どもたち

力を合わせ 呼吸もピッタリ、巧みに体で重心を取る女性ペア



マイペース

木製艇で参加し、心地よい風を楽しむ家族連れ